科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	西洋史Ⅰ Western History I			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 阿部　拓児		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義は主に文献史料（翻訳されたもの）を読解することにより古代ローマの社会・文化についての理解を高めることを目的とする。また、その過程で歴史の学習と歴史学の研究の相違についても認識を深める。授業内容としては、最初に近年の歴史学を取り巻く諸問題について、講師と受講生のあいだで意見を交換したのち、盛期古代ローマ史の各論について文献史料を配布し、史料の解釈について授業参加者全員で議論していく。

[到達目標]

古代ローマ帝国の社会・文化についての基礎知識を獲得する。それと同時に、歴史学の研究手法の特性を理解する。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画にしたがって講義を進める。ただし、講義の進み具合などに応じて、順序や進度を調整する可能性がある

（序論　歴史学とは何か）
第1回　授業内容についてのガイダンス／歴史学についてのアンケート
第2回　歴史学の研究と歴史小説の相違／近年の境界線の揺らぎ
第3回　近代歴史学の成立／学問の創成と方法論の確立
第4回　歴史の有用性／歴史学の有用性
第5回　歴史学に吹く逆風／歴史学の可能性
（各論　古代ローマの社会と文化）
第6回　現代の首都ローマ／ローマ市のトポグラフィ
第7回　ローマ帝国と娯楽文化
第8回　コロッセオと剣闘士競技
第9回　「記憶の場」としてのコロッセオ
第10回　ポンペイとヴェスヴィオ火山
第11回　火山と資料保存／非文献史料の処理
第12回　地方都市の選挙戦／市民の日常生活
第13回　最果てのローマ帝国／ローマ的な暮らし
第14回　ヴィンドランダ要塞と木簡資料／防衛と日常
第15回　学期末試験

[履修要件]

高等学校で世界史を履修していることが望ましい。

西洋史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

西洋史Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験　70点（論述）
平常点　　30点（授業中に適宜提出を求めるコメント・ペーパーによって、平常点を審査する）

[教科書]

使用しない
授業中に適宜資料を配布する。特定の教科書は使用しない。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習、復習については、講義中に紹介する関連の一次資料（翻訳で可）や研究文献を、適宜あわせ読むことを推奨する。

[その他（オフィスアワー等）]

履修人数制限（85名まで。）